



笹小だより



⑬令和5年1月11日号

伊丹市立笹原小学校

大人になるということ…

新年 明けましておめでとうございます

旧年中は、本校教育活動の推進にご理解・ご協力いただきありがとうございました。17日間の長めの冬休みを終えて、子どもたちの声が再び学校に戻ってきました。



新年とともに迎えた3学期は、大きな学校行事として「図工・家庭科展」を1月25日～28日に開催予定です。28日土曜日はオープンスクールとして授業参観も予定していますので、是非ご来校くださいますようお願いいたします。しかし、現在も新型コロナウイルスの終息が見られないため、これまで同様に人数の制限を行いながら地区別の参観としています。なにとぞご理解のほどお願いいたします。

また3月20日(月)には、6年生の卒業式を行います。小学校生活6年間最後の儀式的行事です。立派に小学校を卒業し、中学生としての心構えをもった凛々しい姿を見せてもらえることと期待しています。やはり卒業式もコロナ禍の影響に鑑み、在校生は出席せずに、卒業生と保護者(各家庭2名まで)の皆様は、座席間隔をとってのご臨席をお願いする予定です。あらためましてご案内いたしますが、ご予約おきくださいますようお願いいたします。

さて、久しぶりの登校となった三学期の始業式では、前日が「成人の日」であったため、このような話をしました。

成人の日とは、大人になったことを自覚し、これからひとりで生きぬこうとする新成人を祝い励ます国民の休日です。今から約75年前に1月15日と定められていたことや、2000年から1月の第2月曜日に変更となり、現在にいたっていることなどをまずは話しました。



併せてこれまで民法で20歳としていた成年年齢が、2022年4月から、18歳以上を大人だとすることに変更されたこともあらためて伝えました。このことによって変わったのは、大人として政治に直接参加できる選挙権が与えられたり、自分でいろいろな契約が可能となったりしたこと等があります。飲酒や喫煙については変わらず20歳以上ですが、18歳を成人としているため、すべての言動に一人の大人としての責任を持たなければなりません。小学生である皆さんは、今はお家の方に守られて生活していますが、6年生だとあと数年後には、自分で正しく必要な情報を手に入れ、次にどうなっていくかを考えて判断し、意思決定をしなければならなくなります。

現在はその練習期間であると考えて、周囲の誤った情報に惑わされず、正しいことを見極め、自分で進むべき道を選べる人になってほしいと願っています。

いざという時のために… 過去の教訓をいかして

本校では毎年1月17日頃に、地震災害時を想定した「避難訓練」を行っています。1995年1月17日早朝に発生した兵庫県南部地震によって発生した災害「阪神・淡路大震災」での恐怖や被害を忘れることのないよう、そして万一再び災害が起こった時に当時の教訓を活かして避難や安全確保ができるように実施しています。

当日の午前5時46分、淡路島北部沖の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3の大きな地震が発生しました。震源に近い神戸市街地の被害は特に甚大で、多くの建造物が倒壊しました。交通機関では、阪神高速道路3号神戸線が崩落したり、本校の校区を走っている新幹線も西宮市あたりで高架の一部が崩れ、線路だけが宙づりになってぶら下がっていたり、阪急電車伊丹駅のあったビルの1階コンコース部分が完全につぶれ、電車ごと崩れるなど、実に大きな被害がありました。当時の記録では、人的被害として死者は関連死を含めて6,400人を超え、負傷者も4万3000人を上回るほどの大被害となりました。



当時、伊丹市の駅近くの小学校で勤務していた私は、当日自宅から学校に近づくにつれて被害の大きさを知り、伊丹駅が崩落して目の前に電車が落ちているのを目にした瞬間、大きく気が動転したことを思い出します。その後、記憶では避難されていた300人近い小学校近隣の方々が、体育館や他の部屋で寒い時間を何ヶ月も過ごされていたことが、今も鮮明に脳裏に焼きついています。当時、比較的自宅の被害の少なかった職員や伊丹市職員と一緒に、運ばれてくる食事の準備をしたり、給水車を誘導したり、各教室の片付けをしたりと、それまで想像もしなかった経験をしました。また学級担任として、地震後連絡が取れない児童の安否確認のため、余震に注意しながら、がれきを避けて一軒一軒家庭訪問したものでした。

そんな阪神淡路大震災からもう28年も経過しました。揺れている15秒間は、本当に恐ろしく、冷静な思考ができず、小さかったわが子を倒れてくる家具から守るため、布団をかぶって覆いかぶさることしかできませんでした。これは、それまで地震に対する経験がほとんどなく、机の下に潜ることぐらいしか、対処方法を知らなかったからです。こんな怖い思いを、子どもたちには味わわせたくないとも強く思います。

そのため、実際の地震を想定した避難訓練や保護者への引き渡し訓練を、一年に1回は行うことが大切だと考えています。

本来でしたら、全校生すべてを対象にして引き渡し訓練を行うところですが、コロナ禍の中、密集を軽減するため、本年度も引き渡し訓練の経験が少ない1～3年生までを対象に実施することとしています。ご足労おかけいたしますが、1～3年生の保護者の皆様は、有事の際を想定してご協力くださいますようお願いいたします。(校長 村上順一)

